表コミ 阿南 野々島での課外活動

ともに歩んだ10年

―奇跡を起こす学校―

国際こども学フォーラム事務局代表
AMI公認国際モンテッソーリ治療教育教師、
モンテッソーリセラピー
大阪YMCA国際専門学校高等課程アドバイザー
立野（たちの） 由美子（ゆみこ）

「こんな学校があったらいいなぁ〜!!」

いま改めて振り返ってみれば、心に響いたこのひと言が、私が大阪YMCAに作られようとしていた新しい学科「表現・コミュニケーション学科」（以下表記：「表コミ」）と、ともに歩みはじめるきっかけだったような気がします。

そして、もうあのときから10年が過ぎました。

これまでの自分自身の仕事の流れからは、正直、想像もつかないような「未知との遭遇」の連続でした。

幼児教育を基本に、母子の療育相談や幼児から低学年の子どもたちの個別相談が本来の仕事だった私にとって、15歳を過ぎた子どもたちとの関わりは、はじまった当初、子どもたちにかける言葉さえもなかなか見つからず、緊張していたことを今でもはっきりと覚えています。

思春期の入り口にさしかかっている高校生の子どもたちに、私自身がこれだけ長期間にわたり関われるチャンスが訪れるとは、全く想像していなかったことですし、感謝の気持ちでいっぱいです。

「神様は、いたずらが大好き〜!!」と、ふと思うことがありますが、私と高校生たちとの出会いも、ひょっとしたら、そんな神様のいたずらではなかったのかと思ったりもします。

おとなの入り口に立つ彼らの多くは、自身の立ち位置を求めて、あがいているようにも見えました。そのうえ、生徒一人ひとりが、この学校にたどり着くまでに経験してきた、他者との残念な関係や、不安でたまらなかった自身の生き方、何にもまして、これまでほとんどやり遂げることができなかった学習の達成感など、さまざまな重荷を背負っている彼らが、勇気を持ってその重荷を下ろすことができる場所を求めていたことは明確でした。

気がつけば「表コミ」そのものが、この場を必要とする一人ひとりの思いや願いによって、その形を自在に変えることができる「伴走者」となることが求められ、生徒たちからも日々さまざまな要求が突きつけられることにもなりました。

誰にとっても毎日を丁寧に生きることは、それほど簡単なことではありません。何らかの負荷がかかったと感じた途端、身体に違和感を感じたり、逃げ出したいと訴える生徒もたくさんいました。しかし、苦しみを抱えながらも、出来事から目を反らすことなく、日々の営みを大切に、目の前で起こっている出来事に立ち向かおうとした、その瞬間に、生徒たちの「生き方」は変わりました。

10年を経過した今も、彼らの声にしっかりと耳を傾けながら、彼らの思いだけに流されていってしまわない「舵」を、しっかりと握って放さない努力を惜しまないおとなが、ここにはたくさんいます。だからこそ、たくさんの奇跡が起こったのも事実です。

「表コミ」を通して伝えたい学校の姿とは、この場に居ることを決めた一人ひとりが、しっかりと自分と向き合いながら、それと同時に、自分を取り巻くあらゆる環境をいかにして受け入れることができるかを、たえず考え続けて欲しいと願う場所であるような気がしています。

これまでの異なった生き方に対しても、互いに尊敬し合える関係のつながりを築いていくことによって、育ちにくさや困難さを互いに抱えていたとしても、人は確実に育っていくだろうと信じているからです。

いつかどこかで奇跡が起きるのを待っているだけでなく、誰もが奇跡を起こすことができる〜、そんなチャンスを大切にしているからこそ、これからも、またこの先も、奇跡が起きる学校は生徒たちに寄り添いながら、惜しまずにその歩みを続けていくことでしょう。

「こんな学校があったらいいなぁ〜!!」

それが「表コミ」です。

INDEX

・ともに歩んだ10年 ―奇跡を起こす学校― 1P
・ボランティア活動紹介 2P
・HH国際キャンプ報告
・つながる・広がる 交流プラザ・YMCAフレッシュ 3P
・食育コラム ・早天祈祷会 ・大阪YMCA大会告知 第2報
・ユースリーダー安全支援金寄付者一覧 ・会員 ・賛助会員 4P

大阪YMCAの使命

- 大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。
- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

YMCA
THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION NEWS
YMCA 大阪青年
発行：末岡祥弘 編集：大阪YMCA広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL 06-6441-0894 FAX 06-6445-0297
大阪YMCAのホームページでその他の情報をご覧いただけます。
URL：http://www.osakaymca.or.jp/
No.673
2014 10月号

大阪YMCA ボランティア活動紹介

～高校生事業～

大阪YMCA国際専門学校
表現・コミュニケーション学科 スタッフ　池田（いけだ） 博人（ひろと）

表コミは開校当初からボランティアを受け入れ、今年度で10年目を迎えます。生徒たちに、「たくさんの温かい眼差しを持つ良き大人たちと出会ってほしい」との願いからボランティアシステムを導入しました。

現在、大学生から社会人、主婦、定年退職したシニアまで幅広い年齢層の方々が、「子どもたちと共に」を大切に活動しています。具体的には、休憩時間やランチタイムを生徒と一緒に過ごしたり、教科学習や体験学習・グループ学習のサポート、放課後のテスト対策などを行っています。また、学校行事では、表コミ卒業生がボランティアとして参加しています。現在、約25名の方がボランティアに登録し、定期的にプログラムをサポートしています。

スタッフでも教科担当講師でもない、ボランティアという存在。子どもたちが何に困っているのか？その原因は？どのようなサポート、声かけが必要か？日々葛藤しながらも、授業をすすめる大人とは違う視点で、見過ごされがちな課題を見つけ生徒たちに寄り添っています。まさに、縁の下の力持ちといった存在です。

「ボランティアの方がいるから、教室に入れる」「ボランティアの方がいるから、勉強に取り組める」という生徒の声。立場は違えども、同じ目標を持った暖かい眼差しを持つ多くの大人たちの存在が、生徒たちの課題やトラブルの早期発見・解決に繋がり、表コミの大切にしている「安心できる環境」の大きな支えになっています。

現在、表コミだけでなく、サポートクラス（学習・社会性につまずきを持つ子どもたちの発達を育むクラス）・J-IVY（学校に通っていない中学生の学び庭）・IHS（国際高等課程国際学科）と共同でボランティア運営を行い、今後はスタッフとボランティアだけでなく、ボランティアとボランティアが繋がり活動していく仕組みを作っていくことが目標です。

クラスボランティア

大山（おおやま） 知朗（ともあき）

「3年後には、生徒が社会で生きていける人になっている。これが表コミの凄いところ。」この言葉は、あるスタッフの方から聞いた言葉です。私が表コミでボランティアをするようになったきっかけは、子どもを取り巻く環境が刻々と変化しているのに対し、変化のない授業や対応では良い教員になれないと考えたからでした。表コミでは、専門的な知識をもったスタッフの方がいて、生徒1人ひとりに合わせた対応を行っています。教室や設備をはじめ、会話の節々にまでそのことが感じられ、表コミは生徒のことを真剣に考える大人たちの集団だと感じています。また、そういった環境のなかで、生徒たちが自分の気持ちをぶつけ合い、友達の良さを認め、自分を見つめ直し、生徒自身が成長している姿をよく目にします。ボランティアの私は、生徒の変化を発見する「目」の1つとして、生徒のことを真剣に考えている大人の仲間入りをしようと頑張っています。「先生ではない存在」なので、いつもとは違った一面や表情を見せてくれることがあります。友人関係の不安や、将来への不安を相談してくれたこともありました。その1つ1つの不安を、直接取り除くことはできないけれど、話を真剣に聞くことや、それらをスタッフの方と共有することで、少しは和らげることができたかなと感じています。実は週に一度しか足を運べていないのですが、足を運ぶごとに、「この子、変わったなぁ」と思ったり、「この子、成長したなぁ」と思ったりと、驚きの連続です。今まで見てきたどの教育機関より、子どもたちが社会に近づいていく様子が見てとれると感じています。そして私は、そんな生徒たちの成長に夢中です！

川瀬（かわせ） 鮎郎（あゆお）

僕は表コミのお隣さんとも言える大阪YMCAのインターナショナルハイスクールの出身です。在学中に表コミ生とコミュニケーションをする機会が何度かあり、そういった交流の中で「真っ直ぐでいい人が多いな、一緒にもっと活動したいな」と漠然と思っており、大学に入ると同時にボランティアを始めました。実際にボランティアで参加すると、真っ直ぐな人が多いのは勿論、個性の豊かさに驚きました。ゲームが好きな生徒、マンガが好きな生徒もいれば、楽器の演奏が好きな生徒、囲碁が好きな生徒、昆虫好きな生徒、色々な方向に興味を持っている生徒がいます。先生方もその生徒の興味を受けとめ、好きなものを共有して楽しんでいる、という風景を校内でよく目にします。そういう過程の中で、その好きなものが生徒のアイデンティティの確立を手助けしているように感じ、これこそ表コミの良いところだなと感じます。好きなものを好きと言い、それを柱にしながら自分を確立していく、というプロセスに「みんな違ってみんないい」というモットーを感じています。もちろん好きなことだけに打ち込む訳ではなく、私が担当したコミュニケーションの授業では、演劇を通して他者との関わりを深め、ぶつかりあい、修復していく人間関係形成の大事な部分を培うプログラムを、生徒が楽しめるような作りで用意されており、バランスの良い人間的な成長ができる場所だとも感じました。

生徒にとって、ボランティアという立場は同じ生徒でもなく先生でもない立場ですが、そういう立場だからこそできる関わり合いを、これからも楽しく続けていきたいなと思っています。

第35回YMCA HH国際キャンプ報告

（聴覚障がい青少年国際キャンプ）

HHリーダー会 会長　西村（にしむら） 智恵（さちえ）

香港中華YMCA主催で8月3日（日）～8日（金）にHH（Hard of Hearing）国際キャンプが実施され、台北、クアラルンプール、ミャンマー、香港、大阪の各YMCAから約50名の参加がありました。

今年は全体テーマを“Breakthrough”=「目の前の壁を乗り越えろ!!」として取り組みました。

言葉や手話の違う国の人々とうまくコミュニケーションが取れるかが一番の不安要素であったようですが、空港からの送迎バスで同じだった台北とクアラルンプールの参加者が積極的に話しかけてきてくれたことをきっかけに、ボディランゲージなどあらゆる手段を駆使して、お互いの手話を教え合ったり写真を撮り合ったりと、あっという間に笑顔がいっぱいになっていました。話が通じる喜びや、言葉が違っても伝えようとする気持ちが大切だということを実感したようです。

閉会セレモニーの一環としての各Y文化紹介セッションでは「よさこいソーラン」を踊ることに決め、事前準備会でも練習を重ねました。音楽やリズム、テンポがうまく合わず苦慮しましたが、本番では心を合わせることができ、大きな拍手も受け、満足のいくパフォーマンスができました。

もっと英語や日本手話、国際手話を覚えたいと新たな目標を抱いた参加者や、今度はHHキャンプを支えるキャンプリーダーをやりたいと言う参加者が現れたりと、このキャンプを通してとても貴重な経験をすることができました。

次回2016年のHH国際キャンプは、大阪YMCAが主催します。これまでのキャンプの経験を生かし、自らリーダーシップを執り、それぞれの個性を発揮して活躍してくれることを願ってやみません。

～楽しいグローバル交流イベント～

つながる・広がる 交流プラザ

大阪YMCA学院　スタッフ　中村（なかむら） 佳代（かよ）

大阪YMCA学院 日本語学科では、チューターとしてボランティア活動をしていただいている皆様とYMCA会員の皆様を対象に、ご自身が持っておられる特技や趣味を活かした交流イベント『つながる・広がる 交流プラザ』を今年からスタートしました。今までのマンツーマン形式のチューター活動に留まらず、より多くの留学生達と自らの特技や趣味を活かして交流ができると好評です。

2014年度『つながる・広がる 交流プラザ』実績

5月1日（木）　高橋（たかはし） 千枝子（ちえこ）さんによる「お筆を楽しもう！」

7月10日（木）　高橋千枝子さんによる「オリジナルうちわ作り」

7月16日（水）　行政書士 中井正博（なかいまさひろ）さんと岡本昌子（おかもとまさこ）さんによる「生活相談会」

11月（予定）　谷喜（たにき） 代子（よこ）さんによる「着物ワークショップ」

あなたも好きなことや得意なことを活かして、留学生達と一緒に楽しい交流をしてみませんか？『つながる・広がる 交流プラザ』に参加したいという方！ご応募お待ちしております。

連絡先　大阪YMCA学院 日本語学科
TEL：06-6779-8364（担当：中村）

YMCA フレッシュ

大阪YMCA国際専門学校
表現・コミュニケーション学科 スタッフ
吉田（よしだ） 博志（ひろし）

今年4月より、表コミのスタッフとして働き始めた私。実は、この表コミの卒業生で、5年前までここ表コミで高校生活を送っていました。

表コミ入学前の私は、自分に自信が持てず閉じこもる日々を送っていました。しかし、表コミで生きる力を身につけ、今では「不登校という経験があったからこそ今の自分がいるのだ」と思えるくらいに自分自身を受け止めることができるようになっています。

卒業後は大学に通いながら、表コミでボランティアを経験しました。立場が変わり、初めての役割。その頃の私には、「困っている生徒がいれば、関わり助ければいい」という安直な考えがありました。しかし、スタッフとして関わるようになった今、生徒とただ関わるだけでなく、時には遠くから見守ることも大切だということを学びました。私たちに頼ることでの解決ではなく、自分で動くことで解決をすることが“自立”に繋がるのだと感じたからです。

私が、スタッフとして表コミに関わることで初めて知ったことがあります。それは表コミで起こる全ての出来事に対し、スタッフが何度も議論する姿です。生徒側だった自分としては「ここまでしていたのか」と驚かされ、だからこそ自分はここで成長できたんだと痛感しました。この姿を目にし、改めて表コミで育ったこと、今こうしてスタッフとしてYMCAで関わっていることに、大変幸せを感じています。

今後も、自分が感じてきた「安心できる環境」を今度はサポートする側として、今いる生徒に自分と同じ気持ちを感じてもらえるよう、生徒と共に成長しながら頑張っていきたいと思います。

今日から実践。

食育コラム Vol.34

「和食に学ぶ三つのマナー」

YMCAサンホーム 食生活創造室 大石 和秀（おおいし かずひで）

『食べ方はその人をうつす鏡』といわれるくらい食事のマナーは大切なものです。今回は私たちが普段食べている和食から、すぐに実践できる3つのマナーをご紹介します。

❶食べるときは顔をあげて

食事の主役は料理ではなく、あくまで人。顔をあげ、姿勢をただし、食卓を囲んでいる方の顔をみながら食事をとりましょう。自分中心の食べ方では視線も下を向いてしまい、同席者との場の雰囲気も共有しあうことはできません。

❷一口の量は少なめに

50年前と比べると、現代の食事は噛む回数、食事時間とも半分に減っているというデータがあるそうです。忙しさのあまり、一度にたくさんのものを口に押し込むくせがついてしまっていませんか？

和食には『一口一寸』という考え方があり、お造りや野菜の煮物などは大体一寸（3cm）にするのが良しとされています。大きいものは箸で切って口に運びましょう。見た目も上品ですし、会話のリズムも乱れません。

❸最後まで美しく

食後の食器には「ありがとう」の気持ちが残ります。苦手なものがあっても、体のためと思ってできるだけ残さず食べましょう。また、尾頭付きの焼き魚などは、最後に残った骨や頭をコンパクトにまとめるだけで「きれいに食べる人だな」という印象を与えます。

そしてもちろん食べ終わった後には、料理を作ってくれた人、食材への「ありがとう」「ごちそうさま」を忘れずに。

こうやって考えると、実はマナーは簡単なこと。自分がされたらどんな気持ちになるか、それを考えればたいていの答えは見つかります。「相手の身になって考える」ことは子どもの教育においても重要なことです。食事は単純に食べ物を食べる行為だけではなく、親子の交流の場なのです。小さいときから正しいマナーを楽しみながら身につけることがとても重要です。

和食がユネスコの世界無形文化遺産に登録されたのは、料理そのもののすばらしさはもちろんですが、心をこめていただくという食文化が世界に評価されたということを忘れてはなりません。私たちはこの素晴らしい和食の心を受け継ぎ、世界に誇る美しい食べ方を次の世代に伝えていきましょう。

〈参考〉世界一美しい食べ方のマナー　小倉朋子
食と農林水産業について知ろう、考えよう　農林水産省

大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時（毎月第3金曜日予定）が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第258回　日　時…2014年10月17日（金）7:30〜8:30
証　し…箕浦 史郎（みのうら しろう）さん
（東YMCA スタッフ）
場　所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ…大阪YMCA 本部事務局 総務
TEL：06（6441）0894　E-mail：info@osakaymca.org

大阪YMCA大会 2014のご案内 第2報

開催日時 2014年11月29日（土）14時〜17時

開催場所 大阪YMCA会館（土佐堀）

第一部（2階ホール）

キーノートスピーチ

「日本YMCA同盟中期計画：オールジャパンYMCAの革新を」

スピーカー

中道 基夫（なかみち もとお）さん
日本YMCA同盟理事・中期計画策定委員長
神戸YMCA理事長
関西学院大学神学部教授

第二部（9階、10階）

大阪YMCA活動報告　テーマ「つながる！ひろがる！」

■ユースリーダー安全支援金寄付者ご協力に感謝申し上げます。

第2回報告（2014年8月度）・順不同

八木 知加
仲原 成岳
武田 龍一
大橋 昌美
三木 房子
柴崎 美智子
髙柴 健一郎
勝浦 千春
狩野 直敏
久保 美穂子
境 知春
橋本 明美
ジュゼッペ・フィーノ
浦川 哲也
只野 未来
粟野加寿美
丸岡 郁美
森田 涼美
梶 真子
山田 郁恵
泰地 絹代
岩井 利早
登 淳英
吉崎 房子
渡辺 葉一
山田 久瑞
掛谷 太郎
塚 理
中井 千尋
森 督夫
上西 卓
峰山 望
高井 菜々子
和田 千夏
北口 千尋
金沢 美穂
井関 友香
小西 眞結
碇 由衣
西山 紗央理
梅澤 言海
中村 千春
桝井 智之
伏見 祐子
野口 賢太郎
東 雄人
藤原 学
坂井 祐菜
四至本 裕子
新井 陽子
大里 由恵
金巻 美玲
北田 昂
高田 いずみ
下村 真代
加志 勉
田代 優哉
川端 康博
立和名 房子
熊 潔琳
安原 弘子
赤木 恵子
熊本 宣子
小松原 修
小山 久子
小林 大士
松浦 哲郎
土井 孝浩
北澤 圭太郎
国友 朝子
江見 淑子
桑原 頼子
武井 和子
藤好 基子
藤井 弥生
大岸 弘子
神島 由美子
東條 香
秋本 久美
辻田 逸紀
小原 早代里
上窪 真弓
平井 美帆
肥爪 正美
西川 泰行
杉山 聡子
児玉 友梨
片岡 志を里
大嶋 定子
榎本 房代
立山 英展
松尾 圭悟
清家 球平
吉田 洋子
四方 陽子
松尾 奈美
時 岳史

■会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2014年8月度報告

【新規会員】
岡本 篤也
金沢 美穂
上山 拓也
川口 容子
シューマン・ティアン
田中 歩
濱谷 風香
堀江 沙椰

【継続会員】
新井 陽子
石井 種男
上村 紗央里
後藤 清
長尾 文雄
原 寛
村田 夏紀
望月 強
矢張 陽子
横田 允宏
横田 憲子
余田 哲男

【継続賛助会員】
株式会社扇谷
社会福祉法人 関西いのちの電話
象印マホービン株式会社
忠岡税務会計事務所
延原倉庫株式会社
阪急電鉄株式会社